

23.

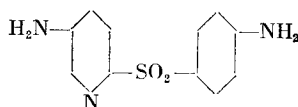
異項環系ズルホン誘導體 (Pyridinin) の  
臨床的實驗

倉田 包雄

(大阪帝國大學醫學部耳鼻咽喉科教室)

Buttle 及其の協力者 (1937) は 4,4'-Diaminodiphenylsulfon 並に 4,4'-Dinitrodiphenylsulfon が連鎖狀球菌感染に對し、Sulfanilamid よりも一層效果顯著なることを報告し、以て有效化合體檢索の一進路を開拓せり。津田、鈴木 (1939) は異項環 Sulfanilamid 化合體の研究に於て Sulfanilamidpyridin (Sulfapyridin) 及び Sulfanilamidmethylthiazol が肺炎双球菌感染に對し有効なるを闡明せり。

森澤氏にこれ等の業績に示唆を得て異項環系ズルホン誘導體に着目し 5-Aminopyridyl (2), -4'-aminophenylsulfon [Pyridinin (山之内)]



なる化合體を合成せらる。

厚生省衛生試驗所秋葉、風間氏はこれが動物實驗を行ひ、肺炎双球菌、連鎖菌に對し效果著明なるを報告せらる。私はこの一新化合體に對し非常なる興味を以てその臨床的實驗をなし、目下尙繼續中なるも茲に中間報告をなさんとす。

本劑はまた人體實驗を経ず、從つてこれが副作用に對しては甚深なる考慮を拂ひたり、亦治療的効果の判定は頗る困難なる問題にして、先入觀念に支配さるるを以て十分警戒せざるべからず。投與方法に就ては本劑は粉末なるを以て徑口的に投與せり。投與量として少量連續投與法と、大量投與法(突撃療法)とが行はる。

本實驗に於ては主として前者を採用せり。

[醫學と生物學・第1卷・第2號・頁77-79・昭和17年1月20日]

本劑を使用するに際してはまた何等の療法を行はざりし患者を選び、他の治療法を行はず亦副作用の状態を調査する目的として他藥品を配合せざりき、現在迄の症例を總括的に述ぶ。

### 實驗例 33 例

急性淋疾	12 例
急性腺窩性扁桃腺炎	6 例
扁桃腺周圍膿瘍	4 例
丹毒	1 例
面疔	1 例
急性化膿性中耳炎	5 例
耳性腦膜炎	1 例
耳癰並に蜂窩織炎	2 例
膿胸	1 例

以上の外各科の同僚に依頼せるものも成績 32 例を加へて總合的觀察をなせり。投與量を決定することに留意せるが、まづ 1 日量 0.3-1.0 g を用ひたり、但し膿胸の 1 例は 1 日量 2 g、肺炎の 1 例には 1 日量 5 g を投與せり。

### 副作用に就て：

Sulfanilamid の製品は副作用のある事が缺點であり、特に本實驗は人體實驗を未だ經ざるものなるを以て、最も深重なる注意を拂ひたり。一般に本製品の副作用としては、倦怠、羸瘦、惡寒、發熱、頻脈、呼吸困難、消化器障碍、肝臟障碍、泌尿器系統の障碍等なり。最も多きは消化器障にして、食慾不振、惡心、嘔吐を訴ふ。次で神經系統に於ける頭痛、眩暈、神經痛、筋肉痛あり、また皮膚に紅斑、蕁麻疹様發疹等を見る。その他造血組織に對する副作用等擧げらる。本實驗例 62 例に於て食事直後、食後 30 分、食間の各時間に投與を試みたるに、食間と雖も食思減退、惡心、嘔吐等の胃腸症狀を呈せず僅に婦人科疾患の過敏なる婦人に、二三食思不振を訴へたるものありたるのみにて副作用と認むべき症例に接せず。凡そ Sulfanilamid 製品の副作用は Sulfanilamid 最も強く、次で Sulfapyridin にして Sulfathiazol 最も少しとせらる。本劑はその何れよりも副作用少きものと認む。

### 効果に就て：

以上の症例に於てその治療成績を總括するに、淋疾に於ては 1 日量 0.5-0.8g を連續投與することに依り Sulfapyridin と同様の効果を認む。腺窩性扁桃腺炎に就ては 0.8g を 1 日或は 2 日間の投與によりて治癒す。中耳炎にありては 0.3-0.5g の

連続投與によりて治療日數の短縮するを認め、尙ほ肺炎双球菌の膿胸及肺炎の2例に就ては著効を認めたるも尙ほ症例を重ねて詳細なる報告をなすべし。

結論. 1. 本實驗例に於ては著明なる副作用を認めず。

Sulfanilamid, Sulfapyridin, Sulfathiazol に比し著しく副作用少し。

2. 効果に就ては他日詳報すべし。唯少量連続投與に適するものと思考す。

(受附：昭和16年11月25日)

- 
- 1) 津田・鈴木：藥學雜誌，第59卷，3號。
  - 2) 秋葉・風間：衛生試驗所彙報，第56號。